

1 安心・安全のための防災・減災対策と高齢者・障害者への支援の充実

(1) 静岡モデル防潮堤整備構想について

防潮堤整備に関する「静岡モデル」その考え方を伺う。

磐田市の防潮堤整備の盛土構造を伺う。

磐田市工法方式で第4次地震被害想定津波に対する強度・耐震は大丈夫か伺う。

防潮堤整備に使用する太田川掘削土は堤体材料として適合するか伺う。

防潮堤整備に必要な315万 m^3 の内3分の1にあたる約100万 m^3 を太田川掘削土で見込むと聞くが、正確な土量を伺う。

工事着手による地域住民への影響などが考えられる、理解が得られたか伺う。

仿僧川水門補強工事の状況と太田川河口右岸側の仿僧川水門から海岸まで約400mの防潮堤整備計画を伺う。

(2) 在宅介護の現況と支援について

核家族や老老介護が進み、家族の介護力が十分でないと介護負担が大きくなり、限度額がオーバーするケースが生じると考えるが、現状を伺う。

介護度が高ければ利用限度額も高くなるが、利用料金も高くなる。介護度が高い程、介護負担、医療依存度も高い場合が多く、そのためサービスも複数利用するケースも多く限度額をオーバーしてしまうと考えるが、現状を伺う。

介護度が軽く歩行が出来る方でも認知症があり、常に見守りが必要なケースもあり、毎日なんらかのサービスが必要となると考えるが、現状を伺う。

今後、市の在宅介護支援の充実を図ることが必要と考えるが、対策と考え方を伺う。

平成27年度から法改正で、施設入所は要介護3以上で、さらに要支援は介護保険から外すと聞くが、現状を伺う。

(3) 身近な地域で質の高い支援や療育を受けられる環境づくり

災害時の障害者支援について、東日本大震災でも避難所での情報提供など支援のあり方が課題と承知している。その対策など、市の考えを伺う。

障害者自立支援法が総合支援法に改正されたことに伴い、児童福祉法において児童発達支援事業の新設や保育所など子どもを預かる施設への支援が盛り込まれ、質や量の拡充が図られているが、現状と課題、今後の対策を伺う。

(4) 地域防災体制の中核となる消防団への支援について

消防団員は昭和27年をピークに200万人から年々減少し続け、平成26年には86万人まで激減している。団員不足が常に問われており、団員不足解消は喫緊の課題である。市民の防災意識を高め、団員不足解消や処遇改善、装備の充実など支援対策の推進を図るべきと考える。今後の市の支援策を伺う。